

# 平成29年度病虫害発生予報第2号

平成29年5月1日  
愛知 県

## 普通作物

### ・予報内容

作物名	病虫害名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (苗いもち)	やや少ない	県全域	前年の穂いもち発生量はやや少ない	－
	イネミズゾウムシ	やや少ない	県全域	前年6月下旬の本田発生量はやや少ない 前年の予察灯における誘殺数は 平年並	－ ±
ムギ	うどんこ病	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並	±
	赤かび病	平年並	県全域	4月下旬現在、発生を認めていない(平年並) 5月の降水量は平年並か少ない	± ±～－
	さび病類	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並	±

### ・留意事項

コムギ赤かび病については、本日発表の「ムギ類赤かび病情報第2号」を参考にしてください。

ムギ類うどんこ病の発生量が増えてきているほ場があります。ほ場をよく観察し、上位葉への感染が見られる場合は、薬剤で防除しましょう。

## 果樹

### ・予報内容

作物名	病虫害名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	やや多い	県全域	3月の越年発病葉率はやや高い	＋
	ミカンハダニ	やや多い	県全域	3月上旬の発生量は平年並 5月の気温は高い	± ＋
ナシ	黒星病	平年並	県全域	4月上旬の花そう基部の発病率は平年並 4月下旬の発病葉率は平年並 5月の降水量は平年並か少ない	± ± ±～－
	アブラムシ類	平年並	県全域	4月下旬の発生量はやや少ない 5月の気温は高い	－ ＋

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
モモ	黒星病	やや少ない	県全域	4月下旬の発病枝率はやや少ない 5月の降水量は平年並か少ない	— ±～－
	せん孔細菌病	やや多い	県全域	前年の発生量は多い 4月下旬の発病枝率は平年並 5月の降水量は平年並か少ない	＋ ± ±～－
	ナシヒメシクイ	平年並 (やや遅い)	県全域	フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並	±
	モモハモグリガ	やや少ない	県全域	4月下旬現在、被害を確認して いない(平年並) フェロモントラップにおける誘 殺数はやや少ない	± －
ブドウ	黒とう病	平年並	県全域	4月下旬現在、発生を認めてい ない(平年並) 5月の降水量は平年並か少ない	± ±～－
	べと病	やや少ない	県全域	前年の発生量はやや少ない 5月の降水量は平年並か少ない	－ ±～－
カキ	炭疽病	平年並	県全域	前年秋の発生量は平年並 5月の降水量は平年並か少ない	± ±～－
	うどんこ病	平年並	県全域	前年秋の発生量は平年並 5月の降水量は平年並か少ない	± ±～－
果樹共通	カメムシ類	やや少ない	県全域	チャバネアオカメムシの越冬世 代成虫密度はやや少ない	－

#### ・防除対策

##### [ウンシュウミカン・そうか病]

ストロビードライフロアブルやベルコート水和剤などで防除しましょう。

##### [ウンシュウミカン・ミカンハダニ]

アタックオイルやトモノールSなどで防除しましょう。

##### [モモ・せん孔細菌病]

発病した枝は伝染源となるため、取り除き園外へ持ち出すなど処分しましょう。チオノック/トレノックスフロアブルやデランフロアブルなどで防除しましょう。

#### ・留意事項

有効積算温度を利用して計算したモモのクワシロカイガラムシの防除適期は、名古屋5月13日、豊橋は5月14日、蒲郡は5月15日、岡崎は5月17日、豊田は5月18日です。前年より9～12日遅くなっています。防除適期を逃さないようにしましょう。詳細は、本日発表の「モモのカイガラムシ類情報第1号」を参照してください。

県内の平坦地では、今後の気温が平年並に推移した場合、同様に算出したチャノキイロアザミウマの第1世代成虫の発生ピークは5月下旬、ナシマルカイガラムシ第1世代1齢幼虫の発生ピークは5月下旬、フジコナカイガラムシは5月末から6月上旬です。しかし、1か月予報では5月の気温は高いと予想されており、若干早まる可能性があります。防除時期の参考になるよう5月中旬頃を目処にチャノキイロアザミウマ情報、ナシマルカイガラムシ情報、フジコナカイガラムシ情報を発表する予定です。

## 野菜

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キャベツ	コナガ	平年並	県全域	4月下旬の発生量はやや少ない 5月の気温は高い	－ ＋
タマネギ	べと病	やや少ない	県全域	4月下旬の発生量はやや少ない 5月の降水量は平年並か少ない	－ ±～－
トマト (施設)	黄化葉巻病	少ない	県全域	4月下旬の発生量は少ない	－
ナス (施設)	うどんこ病	やや多い	県全域	4月下旬の発生量はやや多い	＋
	灰色かび病	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	やや少ない	県全域	4月下旬の発生量はやや少ない	－
	アザミウマ類	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並	±
キュウリ (施設)	アザミウマ類	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並	±

### ・防除対策

#### 〔ナス（施設）・うどんこ病〕

発生が多いほ場があります。発生が見られる場合はパンチョTF顆粒水和剤やガッテン乳剤などで防除しましょう。系統の異なる薬剤でローテーション防除しましょう。

### ・留意事項

キュウリでは、うどんこ病の発生が多いほ場があります。系統の異なる薬剤でローテーション防除しましょう。

果菜類で天敵や訪花昆虫を導入しているほ場では、それらへの薬剤の影響に注意して農薬を選定してください。

ミナミキイロアザミウマが媒介するキュウリ黄化えそ病（病原：MYSV）、タバココナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病（病原：TYLCV）、タバココナジラミ及びオンシツコナジラミが媒介するトマト黄化病（病原：ToCV）が発生しているほ場では、次作への伝染を防ぐために、栽培終了後、植物残さをほ場外に持ち出す前に施設を密閉して、媒介虫を死滅させましょう。

## 花き

### ・留意事項

キク（露地）では、親株床でアザミウマ類やアブラムシ類の発生に注意し、発生を認めたら防除を徹底しましょう。また、白さび病の発生があるほ場では、発病葉を早めに除去するとともに、系統の異なる農薬でローテーション散布をしましょう。

今後はアザミウマ類やハダニ類が増加する時期になります。本ぼと親株床を含めた防除に努めましょう。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台4月27日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：20% 平年並：30% 高い：50%

〔降水量〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%

〔日照時間〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%